

中学生メイカーが、大工道具箱を作りました

「やりくり式の大工道具箱」

今回紹介する工作は、中学1年生のメイカーが作成した大工道具箱です。この大工道具箱は、「やりくり式」と呼ばれる左右にスライドして開閉するフタが特徴の木箱です。昔は、大工が、自分の道具の大きさに合わせて、自作していたそうです。古くは、鎌倉時代の絵巻物にも登場しています。今回は、メイカーらしく、この「やりくり式」の木製の箱を自作して、自分だけの小物入れを作りました。

夏休み調べ学習から好奇心

大工になるのが夢の中学生メイカーのKくん。夏休みの調べ学習に木造建築をテーマに選びました。調べるにつれて彼の好奇心はどんどん大きくなり、宮大工も使っている伝統的な木製の工具箱を作ることにチャレンジしました。

寸法も道具も自分で決める



メイカーズクラブの個別セッションでこの工作に取り組みました。自分の使いやすいサイズとして、自分の大切なものを入れる小物入れにすることにしました。板のサイ

ズ、その板厚に応じたくぎの長さなどを決めていきます。材料が決まると、必要な道具が何かを、手順を考えながら取り揃えていきます。「キリはおじいちゃんのところにあるから借りてくれる」などなど。そういう小さな一つ一つの積み重ねが最終的に満足のいく作品に仕上がることをK君は小学生の時から的工作中で知っていますので、根気強く考えていました。材料と道具をそろえて、手順の確認が済むと、さっそく組み立てに入りました。

【豆知識】釘の長さは打つ板の厚さの2.5~3倍が目安です。

一つひとつを丁寧に作る

今回は、宮大工も使う道具箱に倣うということで、加工も丁寧に工夫しました。板の表面は細かい紙やすりで磨いて、表面を整えるなどもしっかりしました。zoomを使ったオンラインセッションでは木工の細かい様子が見えにくい場面もありましたが、セッション中のK君の手元の写真をお母さんが送ってくださるなどのサポートのおかげで、Kくんと、メイカーズクラブが互いがそばにいるような気持ちで工作に取り組みことができました。



塗装をすると、傷みにくく、汚れも付きにくくなり、好みの色に仕上げることができですが、自然なままがよいというK君は、無垢材のまま完成にすることにしました。

メイカーの感想

やりくり式の箱を作ってみた。宮大工は複雑な構造のモノを作ってすごいなと思った。学校に持っていったら、カバンの中でふたが開いてしまったので、ふたの取っ手の部分をくさびにして、ロックできるようにしてみようと思う。いつかぼくも宮大工になってみたい。



K君
中学1年

Maker's Clubより製作はオンラインで2日間かかりました。模型を入れるためのショーケースを自作した経験のあるK君。集中して作成しました。段取りを考えながら取り組んでいる点が印象的でした。工作詳細はQRコードから。



今月のあおう会 ~自分のことを伝えてみよう/飛ぶってなんだ?~

《モノづくりのお話》

①「伝えてみよう」 いつもと違いがんばったことを題材に、それぞれがみんなに伝えるという時間を持ちました。「PREP法」という話し方のコツを学びボードを見ながら、順番に話しました。子どもたちから「マイクラフトで町を作ってる!」「夏休みの宿題をがんばってる!」などの発表がありました。

②「飛ぶって何だ?」 技術サポーターの方の資料を基に、「飛ぶ」「跳ぶ」などについて考えました。「宇宙で浮かんでいるのは、飛んでいる?」の疑問が出されたので、みんなでそれも含めて、調べて考えてみることにしました。

P 結論 話したいことは、〇〇です。
R 理由 なぜかという〇〇だからです。
E 説明 詳しく言うと、〇〇です。
P 結論 こんな風に〇〇をしています。